



## 合同献血例会 (ホスト高砂青松 RC)

令和6年4月10日 (水)

11:00 ~ 15:30に高砂市文化会館駐車場にて合同献血例会が行われました。



例会記録 2024.4.10 (水) 通算 2098 回

### 会長の時間 President

令和6年4月10日 (水)

皆さん、こんにちは。

本日は、献血例会となっております。献血について、少しご紹介致します。

まず、献血の必要性ですが、血液は酸素や栄養の運搬、免疫など人間の生命を維持するために欠くことの出来ない多くの機能を担っています。現在、血液の機能を完全に代替できる人工血液が存在しない為、医療において輸血は欠かすことが出来ない治療法となっております。したがって、献血によって必要な血液を確保しなければ、輸血医療は成り立たないのです。

一つは、人工的に血液は造れない

一つは、長期保存ができない

一つは、一日、約、3千人の人が必要としています

一つは、最多はがん治療で常に必要とされています

しかしながら、輸血事業の現状は、少子高齢社会を迎えて献血いただいている方の60%以上は、50才未満の方々であり、この世代の方々が輸血医療を大きく支えています。しかし、若者層(10~30才)の献血者数が減少傾向にあります。日本の少子高齢化が進んでいくと、将来の安定供給に支障をきたす恐れがあります。したがって、献血の大切さを今一度考え、そして、RCとして応援することは社会への奉仕として重要な役割をしていると思いました。引き続き、献血例会を継続したいと思います。

以上です。

皆様、こんにちは。

本日は、観桜例会となり、部屋には親睦委員会のご用意して頂いた桜を眺めながら、どうぞお食事をお楽しみ下さい。

そして、親睦を計り、短い時間ではございますが、お時間の許す限り、ご歓談をお楽しみ下さい。宜しくお願い致します。

ちなみに、花見の起源は奈良時代と言われ、梅を觀賞するのが主流でした。中国から日本にきたらしく貴族たちの間では庭に梅を植えるのが定番だったらしいです。その後、日本独自の文化が重要視され、梅から桜を觀賞する形に変化していきました。そして、貴族から武士にも広がり、豊臣秀吉が徳川家康など5000人を招いた「吉野の花見」などは歴史に残るお花見が鎌倉時代に行われました。

そして、江戸時代になり庶民も花見を楽しむようになりました。

その昔、田の神様は桜の木に宿るとされ、桜の開花は田の神様がやってきたしるしとなるため、桜の下で祝ってもてなしたとも言われています。日本人の思いや歴史を振り返り、花見を楽しむのも、又、風流ではないでしょうか。本日は、皆様、楽しんで下さい。以上です。

それと、最後に高砂青松ゴルフ同好会、第43回、44回と連続優勝させて頂きまして、ありがとうございました。もうハンデが無くなりましたので、今後は優勝はほど遠くなりましたが楽しくゴルフを皆様としたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。



◆ プログラム予定 ◆

4月24日(水)	休会【定款第7条第1節(d)による】
5月1日(水)	休会【定款第7条第1節(d)による】
5月8日(水)	新旧合同委員会(引継例会)
5月15日(水)	クラブ協議会(新委員会協議会)

●●● 近隣クラブインフォメーションは、高砂青松ロータリークラブのホームページにてご確認ください。 ●●●

会長 櫻井宣孝 幹事 三枝丈次 クラブ会報・広報・記録委員長 森本匡裕

例会日時 毎週水曜日 12:30 例会場 高砂商工会議所会議室(2F)

事務局 高砂商工会議所内 〒676-0064 高砂市高砂町北本町1104 電話(079)443-0500